

編集後記

本号では、令和元年一月八日に楠綾子国際日本文化研究センター准教授をお招きして外交史料館会議室において開催した研究会「一九五〇年代の日米安全保障関係」の記録を冒頭に掲載しました。本研究会では、対日平和条約の発効から間も無い時期の日米両国間で、在日米軍経費の日本政府による負担を規定した防衛分担金の削減問題や、日常的な在日米軍基地・施設の運用をめぐる、どのような交渉が行われたのか、またそれがその後の安保改定交渉にどのような影響をもたらしたかについて分析していただきました。その記録をご報告後の質疑応答と併せて掲載しています。

また、本号では論文を二本掲載しています。鈴木祥職員は「明治期日本と在外窮民問題」と題する論文を寄稿し、明治政府の成立後、海外に渡航後自活や帰国的手段に窮した日本人について、諸外国からの評価を強く意識していた日本政府がどのように対応を行うべきか検討した様子を論じています。金子貴純職員は「塘沽停戦協定成立以降における陸軍の『偽装親日論』と外務省の対中政策」と題する論文を寄稿し、昭和八年の塘沽停戦協定成立後、蒋介石政権の対日政策を厳しく評価した日本陸軍の推進した対中政策が、外務省の対中政策とどのようにに関連していたかを論じています。

史料紹介としては、浜岡鷹行主査と芳澤直之職員が、「調書『外務省の任務及びその機構の変遷』と題し、占領期に作成された戦前期外務省機構の変遷を整理した調書の翻刻を行い、あわせて調書作成の背景を考察しています。

活動報告としては、「海外渡航記録の調べ方」と題して、一般利用者から問合せの多い海外渡航記録の調査方法及び対象史料のリストの掲載を行っています。

この他に、『日本外交文書 国際連合への加盟』の概要、令和元年七月二日から一〇月四日まで開催した特別展示「外務省創設一五〇年記念 日本外交の一五〇年」、令和元年一〇月一六日から令和二年一月三十一日まで開催した特別展示「日本とポーランド―国交樹立一〇〇周年―」、和歌山県、和歌山県教育委員会と当館の共催で和歌山県立近代美術館で開催した連携展示「外交史料と近代日本のあゆみ」の紹介記事を掲載しています。

以上『外交史料館報』第三号の概要につきご紹介いたしました。本号刊行にあたりご協力いただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

〈外交史料館報は、一部用語を歴史用語としてそのまま使用しています。なお、掲載論文などの論旨は、執筆者個人の見解であって、外務省の公式見解ではありません。〉

外交史料館報 第三号

令和二年三月二十三日

編集発行 外務省外交史料館

東京都港区麻布台一―五―三

電話 〇三―三五八五―四五二一

印刷

東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西二―二二―二六